

あらが

濁流に抗いて

親ら悲痛な表情
KCIAの在日韓国人青年逮捕

—不当逮捕された在日韓国人留学生・青年
釈放のために—

「消失さん驚く
中央」

「党21名検挙送致
在日韓国人」

「21人
致送検挙21名
人」

日付留學假裝潜入

發摘 滲透 浸園

政府転覆活動の容疑
潜入

「留学装い
21人逮捕」

「구실로 渾亂」

在日韓国人留学生

KCIA発表

拘束

間諜裝備
多數押収

11・22在日韓国人留学生・青年不当逮捕者を救援する会

目次

<input type="checkbox"/> パンフ発行に際して	1頁
<input type="checkbox"/> 不当逮捕された在日韓国人略歴	2
<input type="checkbox"/> 関連新聞記事 (1905年)	3
11・12 毎日新聞(夕刊)	3
11・20 毎日新聞(夕刊)	4
11・22 朝日新聞(夕刊)	6
11・23 読売新聞(朝刊)	7
11・22 神戸新聞(夕刊)	8
11・22 毎日新聞(夕刊)	9
11・23 朝日新聞(朝刊)	12
11・25 読売新聞(夕刊)	13
11・22 東亜日報	14
12・1 民族時報	12
12・24 朝日新聞(朝刊)	13
12・28 神戸新聞(朝刊)	14
12・28 朝日新聞(朝刊)	14
12・25 民族統一新聞	16
11・23 Mainichi Daily News	17
< 訳 文 > 11・22 東亜日報	22
" 12・1 民族時報	22
<input type="checkbox"/> 救援する会声明他	25
○ 声 明 (11月25日、記者会見において)	25
○ 談 話 (12月27日、記者会見において)	27
○ 「良識ある日本の皆様に訴えます」 白玉顯	30
(11月25日、記者会見において)	
○ 救援する会ピラ (11月25日、27日)	32
○ 拘束者家族の手記と詩	38
○ 全 協 (在日大韓基督教青年会全国協議会) ニュース 第2号 12月1日	34
○ 「金五子さんのこと」 内村公義	34

パンフ発行に際して

すでにご承知のように、韓国K C I Aは、昨年十一月二十二日、在日韓国人留学生・青年十三人を含む二十一人の学生・青年を「反共法違反」とかスパイ容疑などの罪状によって逮捕したことを発表しました。この逮捕は、発表の一ヶ月以上も前に行われていたもので、韓国情報部は約一ヶ月の間、その事実を家族の前にも隠していたわけです。そして、異例ともいえる長い時を経て、去る十二月十五日に起訴されました。この事実も、私たちが直接関係者を通して知り得ただけであって、韓国の国内でも一切公表されておられません。しかも、被逮捕者の家族や友人たちに詳しい事情を聞いてみても、かれらの被疑内容は全く事実無根で、はなはだしいデッチあげ事件であることは明らかです。

今回のこうした不当逮捕が、一体、何を目的にしたものであるかは判断に苦しみますが、その一つのねらいが、朴政権を批判する在日韓国人のいくつかの団体の「実態」を在日韓国人に知らせ、大衆からの組織的分断をはかることにあるのは事実です。それは、危機を伝えられる朴政権の延命策の一つとみられるでしょう。

私たちがこれまでも在日韓国人の問題に関わりを持って彼らの運動に連帯して来た者たちは、今回の事件を相当早い時期にキャッチしていましたが、韓国情報部の発表後、いち早く「11・22在日韓国人留学生・青年不当逮捕者を救援する会」を結成し、逮捕された人の家族とも連絡をとりながら、事実の報告救援の活動を進めて来ました。それによって犠牲になった個々のメンバーの真実が明らかになって、

早期に釈放され、社会人としての権利と名誉が回復されることを第一に願っての運動であることは勿論ですが、それと共に私たちの心底には、こうした事態を生み出す現状の日韓関係に対する、日本人の責任を痛感するものがあります。だから、こんな運動を通して、私たちが日本人としては、特に日本の「国家」の問題性を明らかにしたいとも願っております。

まず、この不当な事実の実態を知っていただくことが緊急のことと判断して、これまでもすでに何通りかの「資料」を発行しましたが、近づく第一回公判を前にして、これまでのものを少しまとめた形で整理してみました。これまで運動に関わって下さった方が、これを活用して更に運動の輪を拡げて下さること、また、これを手にした方が、一人でも多く私たちの運動に参加して下さることを望みます。

この運動は、長期に亘ることが予想されますので、多大の費用を必要とします。また、出来れば公判ごとに日本からの傍聴者を送りたいと願っています。この資料の売上げ金は、すべてその資金に充当したい考えです。

一九七六年一月

11・22在日韓国人留学生・青年不当逮捕者を救援する会

大阪社会運動協会
寄贈之記

不当逮捕された、在日韓国人略歴

(救援する会調べ)

- (1) 白 玉 光 (ペク・オククワン、27才)
大阪市東成区東小橋三ー一ー九
府立大手前高校卒、大阪大学文学部卒。
大阪韓国青年会議所広報委員
- (2) 金 五 子 (キム・オジャ、24才)
京都府乙訓郡大山崎町字茶屋前四三
市立堀川高校(II)部卒、立命館大学(II)部中退
釜山大学史学科三年
- (3) 金 鉄 顕 (キム・チョルヒョン、29才)
兵庫県伊丹市池尻一五一五
市立尼崎高校卒、同志社大学神学部卒
同修士課程卒
- (4) 金 鍾 太 (キム・ジョンテ、25才)
大阪市城東区鴨野東一ー六ー一
府立清水谷高校卒
ソウル大学社会学科四年
- (5) 崔 然 淑 (チュ・ヨンスク、24才)
千葉県市原市姉崎五九一ー四
千葉県立第一高校卒、早稲田大学卒、大阪市立大学中退
ソウル大在外国民教育研究所一年
- (6) 金 元 重 (キム・ウォンジュン、24才)
東京都文京区千駄木三ー一六ー一〇
- (7) 法政大学経済学部卒
ソウル大大学院経済学科一年
許 景 朝 (ホ・キョンジョ、32才)
大阪市東成区中道二ー二二ー九
府立清水谷高校卒、大阪大学基礎工学部卒
ソウル大医学部三年
- (8) 李 元 二 (イ・ウォニ、23才)
京都市右京区松屋鈴川町三六
市立洛陽工業高校卒
釜山大学経済学科四年
- (9) 張 永 植 (チャン・ヨンシク、26才)
名古屋市中区矢田六一四〇
中央大学法学部卒
ソウル大大学院法学科一年
- (10) 蔣 明 玉 (チャン・ミンオク、23才)
東大阪市喜里川一〇一ー二 三杉マンション26号
出生地は韓国大邱市 出身校不明
大阪韓国総領事館勤務
- (11) 姜 鍾 健 (カン・ジョンゴン、24才)
京都市右京区西院追分町二
府立桂高校卒、同志社大学法学部中退。
- (12) 金 東 輝 (キム・ドンフィ、21才)
大阪市東成区中本三ー一八ー一七
私立上宮高校卒
カトリック医科大学一年
- (13) 金 三 郎 (キム・サムナン、25才)
KCIA発表の住所には存在せず。

在日韓国人の留学生 ソウルで連行続出

ソウル十一日古野特派員リ

ソウルの大学に留学している在日韓国人子弟が、韓国当局に連行されたり、空海で出国にストップをかけられる事件が相次ぎ、在日韓国人留学生の間で「ショックを与えている」といふ。駐韓日本大使館も十一日までに「この情報をつかみ、強い関心を持っているが、連行の理由はわかっていない。」

ソウルの大学に留学している在日韓国人子弟が、韓国当局に連行されたり、空海で出国にストップをかけられる事件が相次ぎ、在日韓国人留学生の間で「ショックを与えている」といふ。駐韓日本大使館も十一日までに「この情報をつかみ、強い関心を持っているが、連行の理由はわかっていない。」



またしても.....

回復への具体的な提案も「われわれには知られていない」と韓国からの通信「(雑誌)世界」は記載している。民衆はよみかける手だてを奪われ、ひびく消耗せられてゆく痛々しい姿。無期の間で、なお孤絶の闘いをつづける詩人・金芝河氏の状況にも、胸を深くえぐられる。数え切れない犠牲者、真実の言えない弾圧は、どこまでつづくのか。在日韓国人や在日朝鮮人が父祖の地を訪

れた時、思いがけないことが起こり、連行され、犯罪者にならざるを得ない。あけは死刑になったりする事件も多い。そしてまた……。脅迫や拷問のなかで、人間の希望の灯をともしつづける人々の苦痛を思って、あんなとやる。ただならぬ歴史的現象。「日本とアメリカは韓国の現政権を支持しないではない」と、ある在日韓国人はむせび語った。

日本大使館や関係者の話を総合すると、在日韓国人(僑胞)の留学生が連行される事件は九月下旬から始まったとみられる。十月下旬になって留学生間で、僑胞学生連行が話題になりはじめ、姿を消した学生の関係者から日本大使館へ連絡してきたり、日本に向け

ウル大を中心として、大学院の留学生(女子留学生を含む)数人が連行され、その他にも取調べを受けたものがあるといわれている。日本大使館としては、在日韓国人子弟の問題であるため、慎重に取り扱うこととしているが、どのような事件に關連したのかつかめておらず、大阪府立A高校の社会科学グループ出身の留学生が多いともいわれている。

留学装い スパイ活動

KCIA発表 逮捕者は21人

【ワウル二十一日】木村特派員 会(の名で民主・自由化運動を背景から探ったこれまでの最大規模の学園工作団とされている。発表によれば、大阪韓国青年会(の)が在日韓国人、女性、五〇名を逮捕したと発表したが、同時に日本に在る学園浸透工作者の名前を発表した。それによつて、スパイ団は韓国政府の転覆と共産化の目的を在日韓国人を留学生活に立、ソウル大、韓国神学大、釜山大、高麗大、カトリック医大に潜入させ、いわゆる対南工作の、統革命指導部、を学園内に組織し、韓国民主青年同盟

の会議で韓国に入った時、かねてからスパイ網を築いていた当局により逮捕され、スパイ網の全容が明らかになった。ほかの主なメンバー次の通り。▽金子三郎(釜山大学校三三)年々東京都府町郡大山崎町字茶屋前四三)一七五五年一月、在日工作指導員、自称三木(名前不詳)三三)の指令で山口県から北朝鮮の元山港に渡り、釜山大学中心に工作した。▽金哲三(在日韓国人)韓国神学大、二年生、兵庫東伊丹市池尻一五の五)一七二二年前出の金貴雄氏に影響され、七五年月東京都小午駄本三の二六の二マソウル医大本科一年許朝朝三三)大阪市東成区中道二の二九の九マ釜山大経済科四年李元三三)京都市京区松屋川町三三)マソウル大大学院一年張永植三三)名古屋市東区矢田六の四〇マ高麗大法科三年姜鍾健三三)京都市右京区西院通分町一マカトリック医大一年金東植三三)大阪市東成区中本三三)八の二七マ無職金三三)一五の九マ大阪韓国総領事館旅券課、韓明玉三三)東大阪市喜里川町一〇の三)。

反朴派の朝鮮統一運動家を組織している「統一革命党在日韓国人連帯委員会」の朴徳萬委員長は二十日夜、韓国中央情報部(KCIA)が在日韓国人十三人を含む二十一人をスパイ容疑で逮捕した事件について東京で記者会見し「朴政権がうちに上げた謀略的弾圧事件で、在日韓国人による反朴運動の弾圧強化をわらうたのだ」と内容をとする声明文を発表した。

積放を要求

政治犯家族協

【広島】韓国学園スパイ団事件について在日韓国人政治犯家族協(東京)の李在永会長は二十日夜、広島市の平和記念館で記者会見してこの事件の事実を明らかにし「朴政権がうちに上げた謀略的弾圧事件で、在日韓国人による反朴運動の弾圧強化をわらうたのだ」と内容をとする声明文を発表した。

統一革命党在日韓国人連帯委も

韓国青年同盟

「学園スパイ団」逮捕という韓国政府の発表に対し在日韓国人同盟中央本部は二十一日、「北からの脅威をうち上げるための陰謀である旨の抗議声明を出した。

「でつち上げ」と抗議

在日韓国青年同盟

この大がかりなスパイ団捕獲の発表は、現在進められている北朝鮮在日朝鮮人の韓国帰りの、日韓間の留学生の相互往来など南北民間交流の今後、大きな影響を与えかねない。北朝鮮系の関係者の間では、すでに韓国の里情はワナだとして反対している。またKCIAは同時に学園浸透工作の最高責任者、具清道氏(大阪生野区居住)を学習自営)らに在日朝鮮人の名前を発表したが、これは北朝鮮系団体の間に強い反発を招くとみられている。

北朝鮮スパイ団摘発

在日韓国人12人を含む

韓国中央情報部が発表

【ワウル二十一日共同】大韓民国(韓国)中央情報部は二十一日午前、これまでに在日韓国人十二人を含む大がかりな朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)のスパイ団計二十一名を摘発し、二十日、国家保安法違反、反共法違反などを身柄をソウル地検に送検し、疑者を引き続き調査中と発表した。

スパイ団として摘発された二十一人のうち、在日韓国人十二人全員がスパイとされ、その他はスパイの助三人、反共法違反に関わられた者が四人、このほか韓国人二人がスパイとされた。このなかには、主犯格とされた大阪の韓国人青年会顧問の報告員ほか、ソウル大、釜山大、高麗大などへの留学生五人が含まれている。またスパイとされた韓国人二人のうち、一人は大阪府在住の韓国籍帰化者も含まれている。

またスパイグループの主犯格白玉花については、呉清道院長らと共に「ソウル書店」「啓成学校」「白頭学院」などを設置運営し、六八年七月から七五年六月まで三回にわたり北朝鮮を往來する一方、日本で在日韓国人子弟を韓国に誘致留学させ、自らが六九年四月から七五年十月まで五回にわ

中央情報部はこのスパイ団を北朝鮮が工作員として、在日韓国人を韓国に偽装留学させ、大学などで「統一革命党」指導部の地下組織を作り、また「韓国民主青年同盟会」の名目で国内に革命勢力を培養し、学生、宗教人、知識人を扇動して「民主化」「自由化」のスローガンのもと、国内に混乱を起させ(国家転覆)の決定的時期を作り出すとした新しい大規模スパイ団と断じている。

習し、同時にスパイ要員を物色したあと、北朝鮮でスパイ教育を受けさせ、韓国に潜入させたとしている。またスパイグループの主犯格白玉花については、呉清道院長らと共に「ソウル書店」「啓成学校」「白頭学院」などを設置運営し、六八年七月から七五年六月まで三回にわたり北朝鮮を往來する一方、日本で在日韓国人子弟を韓国に誘致留学させ、自らが六九年四月から七五年十月まで五回にわ

解説

中央情報部が22日に発表...

新聞表題が指定

中央情報部の発表文

「民主化」「自由化」口実...

「民主化」「自由化」口実...

「いさの」寓話の「大い少...

1975. 11. 22

1975. 11. 22, 10:00 以後...

中央情報部の発表文書と表題指定の内容

「留学中に連行され

情報部員が乱暴

在日韓国人女性が訴え

韓国中央情報部(KCIA)は...

朝日新聞 12月24日、朝刊

学園スパイ公判に会員派遣

救援グループ

大阪 先月二十日、大韓...

在日韓国人ら13人起訴済み

韓国学園スパイ事件

韓国中央情報部に十一月末...

神戸新聞 12月28日、朝刊

初公判は来年一月中旬に開かれ...

朝日新聞 12月28日、朝刊

民族時報 12月1日 22ページに訳文

権末子氏の手記

(全文)

二十三日、母国に留学していた権末子氏(ついで、K.O.I.A.の進行を勇氣をもつて告発しました。スパイにテツチあげられ投獄された友人のためにあえて発表した権末子氏の手記を紹介し、行政権の進行糾弾闘争の強化を訴えるものです。

私は、埼玉県浦和市別所三〇三二五 末、この手記を発表する決心をしたのは、両親と共に住んでおり、名前は権末子、年二十六歳です。私は、現在、韓國のソウル教育大學二年に籍をおく在日韓国人二世の母國留學生であります。

本来ならば、大學卒業を数個月後にひかえ、本國において勉學に励んで居るはずの身でありながら、本國に行かずにこの手記を書かすにはいられない自分の氣持ならば、何と云うよりもありません。とうしうのよ、今年の夏、母國留學中に韓國中央情報部に連行されて女の繩索をけがされてその酷い難苦屈辱のために、自分の希望はくすれ去り、運命が狂いはじめました。私は、けがられた事に対する抑えることの出来なう憤りを「この手記を綴つておろしやう。」

私は、この手記を綴る決心をしたのは、女性として結婚にもつてかたがたあり、まづもの女としての重荷を生背負つたことになるかも知れないことを知り、ついで、敢てこの手記を綴る決心をしました。あのいま、夏以来、数個月間の苦悩の

以来約一年半、民族教育のエキスパートになるべく懸命の努力を重ねながら、ソウル教育大學の學校生活を楽しんでおりました。私は、母國の學生仲間をきかされたくまひつき、本國留學生の家庭を訪問したりして、韓國の風習になじみ、民族同業を身につける努力をしながら、民族同業生活をあへて居りました。

そのような學校生活のある日、突然、中央情報部によって連行されたいつとも思ひもよらぬ出来事に出会いました。

八月五日、十一時半頃、同室の學生が學校に行つた後、静かに一人の本を讀んで居る時、二人の男が現われ、中央情報部の身分証明書を見せながら、語があるから一語に行つてほしいと云う。男は四十過ぎ、いかつていつかメカネをかいたと云う、もう一人は二十代、半ばの風流な男がそばに居ました。その自家用車で下山の中央情報部の近くにあるある二階建ての家に連れて行かれました。

その家は、一見、普通の住宅と見えては、私には一階の居間のような部屋に通され、私は、どうやら不安な氣持で居るやうな男の男の男を待って居りました。居間の後、居間において教人の男が取り調べを始めました。最初の質問は、「何のために連行されたか知つて居るかどうか」との、

「どのきいた言葉であります。私はそれに対して「知らない」と答へました。すると「そんな苦ではない、自分の胸を突きついてみる」「わがやがた」「このやうな質問が繰り返されて居る男は「お前がどこか知つて居るはずだ。我々はお前を生かすことも殺すこともできりやう。」「お前は誠意がない」「反抗的だ」と言つていきなりビンタをあたれ、私はさらさらとなつてしまひました。そして彼は「しゃべらなければ、しゃべらず方にはいけません」「他に(地下室にある拷問室)場所を移してもいいんだ」と言ひました。彼等は、地下室には拷問専用の人間がいてどうにでもすると言ひ、生きて捕れないかもしれないと言ひました。彼らは、新聞に出ている死んだ人の遺書の詩を讀み上げたが、私をその死者になぞらえたりしました。

それで、私はもう氣が転倒してしまひ、今考えても十日間の尋問にどのような順序で、どのような話を話したのか断片的にしか思い出さず居てもできません。

彼等は、私の日本國內での旅行、韓國國內での旅行、大學でのサークル活動、留學の目的、韓國學校での勤務、日本國內で知りあつた人物、韓國國內で知りあつた人物について根ほり葉ほりのやうな執事な尋問を繰り返す一方、陳述書を何回も書かされました。夜通しで尋問したり、寝がされるときも日にわすかはかりの睡眠しか書えず、私は、しきりに夢遊病者みたいになつて居りました。

そんなある日、被れてうたた寝している時に、情報部員が自分たちでしゃべつているのが耳に入りました。「利用できなければ利用すな」「反抗的で利用できないのは消すまじ」といふ言葉をきいて私は、生きては居られないので、はい、いかに思ひ、急に涙があふれ、恐怖感で全身をこわしました。その時、両親の顔や、兄弟の顔、友だちの顔が浮んで居ました。

そのような事があったから、私は知らない事、ありもしない事を彼らの口に通りに認めました。彼は、「お前は私の口に通りにした方が得策なんだ」と言ひ、時にはいつか酒をすすめたりしました。

そのような夜、私は自分の体に男の手がしのびよつてくるのを感じました。はつきりとして身を起こすと、男は黙つて部屋を出て行きました。そして、その後、釈放される一日前の八月十四日の夜のことであつたと思ひますが、夜中に一人の男が私のふとんに入つてきて、私に暴行しようとした。私は必死にあがきながら死ぬもの狂いに抵抗しました。男は仕方なく出ていきましたが、隣の部屋で二人の男が何かをひそか話し合つて居る音が聞えました。

私が釈放された當日、情報部の男は、私の下宿を訪れ「お前が体を許さなければ再び情報部に連行するし、パスポートも渡さないぞ」と脅やかし、私にけがられたものようにおそいかかつてきました。こうして、私は女の繩索を奪われ、耐えられない屈辱をうけました。男が部屋を立ち去つた後、私も

は失神したやうに部屋に倒れて、親や兄弟や持参のものをとらよめなく思ひうかへました。私は、八月十五日に釈放されるに先立って、中央情報部に連行され、「この屈辱を取り調へてくたはう」一切の内容をいかに誰にも言つてはならない。もし公言した場合、再び連行されるのをうけろ」との趣旨の警告書に捺印させられました。また、「生徒護國団に積極的に参加して維新体制のために奉公する」との内容の反省文も要求されました。

身柄が釈放された後、八月十八日にはアストリア・ホテルに、二十一日にはプリンス・ホテルにそれぞれ中央情報部員がけがらに呼び出され、日本に帰る日を確認すると共に、又もや恥かしめをうけました。

二十一日には、尋問で多分中央情報部の上部の署と思われる人から「ソウルに戻つたら一度あつて、これからどのようにするのか話し合ひなさい。それから学校の登録関係、生活、卒業後の就職等一切を保障する」といふおぼろげな言ひをしました。

こうして、私は胸をふくませて母國留學の途にのほた時と正反對に、傷心の氣持で日本に帰つてまいりました。日本に帰つてからは、私は中央情報部の男が要求した通り、数日後、無事に着いたの葉書を書きソウルに出しました。私は、ほんとした氣持で家に着いたもの、いまもいふ氣持で心の奥に深く息を吐き出して居る言ひもありませんでした。この言ひだけを、親や兄弟にうかがつておくれにいかず、日がたつたつては、中央情報部K.O.I.A.のけがらに耐えざる憤りが心の底からまきまつておぼろげな言ひをしました。ソウルに戻つ

て學校に行く氣になれず、まづ日本でのこれといった生活の目標もたてぬままに一人も心もなした日々を過して居た九月下旬のある日、ソウルの中央情報部の男から手紙がまいてきました。その手紙は、早へんソウルにまいりて書いてある、まづ、日本にいる彼の同僚を通じて援助もつて居て居りました。私はあのあんな憤りをもつて居ない不安にかられました。私は、親しい友人にソウルでの出来事を身もたれぬ友人と相談の上、ソウルに行つて卒業を続けることをあきらめました。それは情報部、中央情報部のけがらにも恥かしめをうけながら、その手先となることを意味したからです。もちろん、このまま結婚することをお断りしない自分であることを心にかかひました。私は、自暴自棄になつてはいけなかつた友人に励まされながら、教育者としての希望をすて、別の人生を生きていかねばならないと憤悶の毎日をおくりました。

こうしたなかで十一月二十日、中央情報部は、「留學生スパイ団事件」となるものを発表しました。その中には私が中央情報部で取り調べをうけて居る時、名前の出た人々の名もあつたので、私はもう一度、くろく仰天してしまひ、私の事実無根な自白がその人々を大変な境地においやりたのではないかと、この自責の念にかられるやうになりました。囚われの身となつた友人達のことを考えると、いてもたつてもいられず、自分の身に起こつたことが単に一人のことではなく、多くのの人々と深く関わつて居るものである事をいやが上にも強く感じました。私は自分が中央情報部によつ

て多くの留學生を事実無根の罪に陥れる為を利用して居たことを初めに悟りました。私は、「在日留學生學團スパイ団事件」となるものが、全くのテツチ上げである」を私の体験から断言しました。朴政権と中央情報部は、女としての私の生涯を滅茶苦茶にする遂行をはたらいたばかりでなく、私などを脅かして虚偽の自白をもつた「學團スパイ団事件」となるものをテツチ上げました。この世の中で、朴政権ほど悪い政権はありません。私はソウルにいる時、學生事件などで逮捕された本國の女子學生が、中央情報部に連行された恥かしめをうけたら、性拷問をうけた話を多く聞かれました。私は自分の体験でこれが事実であることがよくわかりました。親元を離れて、祖國に留學した私達女子學生に対しては、こんな野蠻さはなく、独裁政権をこのままにしておいてはだらうか。今、本國に子供を留學させて居る親で不安をもつて居ない親は一人もいらないでしょう。今まで何も知らない私の両親もこんなショックが大きいでしよう。私は朴正熙政権を憎みます。私は中央情報部のけがらにも恥かしめを感ずるやうになり、自分なりの決心を固めるやうになりました。結局、私は韓國の中央情報部により不当に連行されての事実無根の多くの虚偽の事実を自白させられ、それが留學生スパイ団事件のテツチ上げに使われ、(3)取り調べの不可抗力の条件下で女の繩索を奪われた(4)更に中央情報部の手先となる事を強いられた(5)この事実を自分の身に起こつたこととして確認することができませんでした。

一九七五年十二月 権末子

ROK Rounds Up 21 North Spies

SEOUL (UPI) — The South Korean Central Intelligence Agency (KCIA) said Saturday it had rounded up 21 North Korean spies, many of whom were Koreans from Japan attending colleges in Seoul and the southern port town of Pusan.

Seventeen of the alleged spies were students at Seoul national

and Pusan universities and two theological colleges in Seoul. Eleven of them were from Japan. The group included five women in their 20s.

KCIA said the members of the ring were North Korean agents who entered the schools posing as visiting students. "The group tried to form a South Korean democratic youth alliance on the campuses and carry on subversive activities," it said.

The ringleader of the group was identified as Paik Ok Kwang, 27, who visited home in his capacity as public relations officer of the Korea Junior Chamber of Commerce in Osaka, Japan.

KCIA said Paik came into contact with a ranking North Korean agent in Japan in April, 1967, and went to North Korea in August the next year. He has since visited North Korea three more times — in 1972, 1973, and 1975 — for espionage training, KCIA said.

KCIA said other members of the ring helped organize antigovernment student activities in Seoul and Pusan.

mainichi daily news 11月23日

『東亜日報』11月22日(一面)翻訳 【原文9ページ】
学園浸透間諜団を摘発

中央情報部発表一党二十一名検挙送致

日本から留学仮装潜入

間諜装備多数押収

「自由化」口実に社会混乱を画策

中央情報部は二二日午前、母国留学を仮装、学園に浸透した北傀間諜一党二一名を検挙、国家保安法、反共法違反等の嫌疑で、去る二〇日ソウル地検に拘束送致し、関連容疑者を引続き捜査中であると発表した。中央情報部は今回の事件は、北傀が彼らの工作員を留学生に仮装、ソウル大、韓国神学大、釜山大、高麗大、カトリック大等国内学園に浸透させ、いわゆる「統一革命党指導部」を学園内に構成、地下網を組織して「韓国民主青年同志会」名義で、同調勢力を糾合、統一戦線を形成する一方、学生、宗教学者、知識人等を背後から操縦して「民主化」「自由化」の口実の下に騒擾をおこすようによって社会不安と混乱を誘発、決定的時機を作り出し、国家変乱を画策する大規模な学園浸透間諜事件であると明らかにした。

国内連絡責等三名は北韓も往来

発表によればこの事件は在日北傀工作拠点責任者である呉清達(三四・大阪市啓成学院々長)が日間諜、金貴雄、安日秀、白玉光(拘

束)等と北傀労働党細胞である「金日成主義研究会」を大阪で組織、母国留学を希望する僑胞子女たちに祖国の風習とハンゲルを教えるという口実で「シアル書堂」「啓成学院」「白頭学院」「学習堂」等講習所を私設、金融会社である「千里第一商事」等を設置運営し乍ら、これを拠点に工作員を物色包摂し、間諜教育をした後、留学生を装い国内に潜入させて、彼らに▲「維新撤廃」「拘束者釈放」「言論自由保障」等を口実に、学生、宗教学者、知識人、言論人等を煽動、反政府デモをおこすよう背後操縦し、▲影響力ある学生、宗教学者をして「民主化闘争」のスローガンの下に各階各層を網羅し、反政府統一戦線運動に積極参加するようにし、▲四・一九と同様の極度の混乱事態を作り出し、決定的時機に蜂起して北傀の支援を要請すること等を指令したということである。

特に今回の事件の主犯の一人で国内連絡責任者である白玉光(二七・大阪市)は六八年七月から今年六月の間に三回清津港を経て北傀を往来し乍ら北傀労働党に入党、母国偽装留学間諜を国内に潜入させて、五回に亘って国内を往来し地下網工作状态を点検し、偽装留学間諜金五子(二四・女・釜山大三年)金哲頭(二九・韓国神大大学院二年)等二名も北傀に入党したのち学園内で活躍してきたということである。

この日拘束送致された二一名は間諜一四名間諜補助三名、反共法違反四名で、一党中には女子も五名含まれているが、彼らが先ず包摂対象とみなした国内学生は、ソウル大生二〇名、釜山大生一〇名、高麗大生九名、延世大生二名等四名であることがわかった。

情報部は彼ら間諜たちから暗号表、乱数表、間諜通信記録書、指令受信用ラジオ、極細微写真撮影機、不隠宣伝ビラ製作騰写用具、不隠印刷物、冊子等間諜装備多数を押収する一方、関連者の中で考えが軽微で過誤を悔いた学生二〇余名は訓放した。

一八日以内に自首すれば寛容

情報部は、又、現在この事件の関連容疑者に対する捜査は継続中であり、関連者が来たる一二月一〇日迄に直接又は書面にて自首してきた場合は、法の許す範囲内で最大限寛容を施すことを明らかにした。

起訴された間諜団

●問

- ▲白玉光 (27) 大阪韓国青年会議所弘報委員・日本大阪市長東区東小橋三一一一九
- ▲金五子 (24) 女 釜山大史学科三年 京都府乙訓郡大山崎町字茶屋前四三
- ▲金哲顕 (29) 韓国神学大学院二年 日本兵庫県伊丹市池尻一五二五
- ▲金鍾太 (25) ソウル大社会学科四年 日本大阪府城東区東鴨野一六一一
- ▲崔然淑 (24) 女 ソウル大在外国民教育研究所 日本千葉県市原市姉崎五九一一四
- ▲金明珠 (27) 韓国神学大学院二年 ソウル・ヨンドンポ区ヨンドンポ洞一街一〇五
- ▲金元重 (24) ソウル大大学院一年 日本東京都文京区千駄木三一一六一〇
- ▲許景朝 (32) ソウル大医大本科一年 日本大阪府東成区

●問 間諜 幫助

- ▲田炳生 (25) 韓国神大三年除籍 鎮安テピョン教会伝道師 全北オク郡オク邑ソンジエ里四八〇
- ▲金貞美 (20) 女 釜山大哲学科三年 釜山市南区テヨン洞三四の一
- ▲盧承日 (24) 釜山大政治外交科三年 釜山市プサンジン区ムニヨン一洞サン四九
- ▲羅燾賢 (28) 韓国神大卒業 礼山ソングョル教会伝道師 忠南礼山郡礼山邑シンフン里三八一
- ▲朴俊建 (22) 釜山大哲学科三年 釜山市トソレ区オヤンジョン二洞六二一の六五
- ▲金俊洪 (22) 釜山大哲学科三年 釜山市ヨンドン区シンソ洞二街一

●反共法等違反

- ▲朴明祚 (22) 女 釜山大家政科三年 釜山市トソレ区アソナク洞五八六

背後に日間諜団

- ▲吳清達 (34) 在日拠点責、学習堂等自営 ▲岩本(名前は未詳) 42 在日拠点責、兵庫県伊丹市七五〇四〇 ▲朴徳萬(44) 在日拠点責 釜山トソレ出身 ▲金貴雄(31) 在日間諜 啓成学院長
- ▲金泰明(28) 在日間諜 民団生野区事務員 ▲安日秀(28) 在日間諜 星野株式会社常務 ▲吳秀珍(45) 在日間諜 朝総連大阪経済部長 ▲三木(名前は未詳) 27 在日間諜 連絡拠点 大阪三八七一一五九一 三八五二二四二 ▲鄭(名前は未詳) 36 在日間諜 留学同奨学部長 ▲金永喆(40) 在日間諜 朝鮮青年同盟 京都組織部長 ▲金仲泰(45) 在日間諜 統革党連帯幹部 ▲金珉守(32) 在日間諜 民統新関西支社幹部 ▲趙範植(35) 在日間諜 民統新関西支社幹部

- ▲李元二 (28) 釜山大経済科四年 日本京都市右京区松尾中道二二二一九
- ▲張永植 (26) ソウル大大学院一年 日本愛知県名古屋市中区矢田六一四〇
- ▲蔣明玉 (23) 女 駐大阪総領事館旅券課勤務 大邱市大明洞一街九二七の三
- ▲姜鍾健 (24) 高大法科三年 日本東京都へ注：京都市の誤り、右京区西院追分町二
- ▲金東輝 (21) カトリック医大一年 日本大阪府東成区中本三丁目八一七
- ▲金三郎 (25) 無職 日本大阪府生野区猪飼野東一五一九

『東亜日報』11月22日(七面) 翻訳 【原文10ページ】

国家変乱ねらい社会不安造成

学園浸透間諜団

日本関西地方組織から端緒

「祖国」を十分に認識していない
僑胞子女重点包摂

母国訪問団とは全く無関係

中央情報部は二二日午前、在日同胞母国留学を仮装した大規模学園浸透北傀間諜団事件を発表、一問一答を通して北傀対南赤化工作の悪辣さを又一度明らかにしたが、大学街の心臓部にまで間諜が潜入、暗躍してきたことを明らかにした。

この度の事件の捜査経緯は……。
大阪を中心とした日本関西地方は朝総連組織活動が強い所からみて、この地域に北傀の対南工作拠点があると判断し、査察してきたが去る二月中旬、この度の事件の端緒を得た。内偵工作を継続するうちにこの事件の主犯者の一人で、国内連絡責任者である白玉光が青年会議所会議参席の名目で、去る十月初旬入国、暗躍中である所を検挙し、関連者を一網打尽につかまえた。

過去の事件と比較しこの事件の特記すべき点は……。
この度の事件においては、北傀を往來し、間諜教育を受けた工作員が影響力ある学生達を包摂し、背後からデモの組織化、過激化のための煽動と誘導等行った事件が赤裸々に示された。又我が国社会の一角の「自

由化」「民主化」標榜の動きに便乗し、感受性の強い学生層と少壮宗教人を煽動し、行動に出させた後、これを起爆剤として社会混乱、国家変乱を企画しようとする彼らの手法は又、明白になった。

—この度の事件であらわれた北傀の対南工作手法の特徴は……。
▲在日北傀間諜達は母国留学をしようとする僑胞子女に祖国の風習とハンゲルを教えるという名目で講習所を設け、彼らを間接、直接的に包摂した。又、祖国をまちがって認識している彼らを学園に潜入させ、学園騒擾を背後操縦しようとしたことであった。又、この度の事件に多数含まれている女子学生は、往來で軍部将校に秋波を送り、軍事機密探知と軍部浸透をはかる手法を使った。又、「韓国民主青年同志会」という名で同調者を集め「自由化」「民主化」等のスローガンの下、取締の目をさげ、同じ大学に二名ずつ浸透させ徹底的に身分をいつわり縦深単線型手法を用い主犯は表面活動に絶対出ないという点である。工作技術上の特徴では北傀を「革命基地」に、日本を「工作基地」にして母国留学を希望する僑胞子女、特に民団幹部子女を包摂対象にした点である。ところで六二年以後在日同胞母国留学生は全部で二二二一名である。

—この度の事件にあらわれた「在日統一革命党韓国人連帯委員会」というのはどんな団体か。
▲朝鮮連の指導の下の「民統」委員長朴徳万を中心に去る四月一八日東京で結成された反国家団体で、北傀の在日拠点のひとつだ。韓青、民統協及び「金大中救出委員会」韓民統とも提携している。

—「統一革命党の声」放送の正体は……。
▲海州近郊から放送し、あたかも我が国の内から放送しているごとく仮装、黒色宣伝を行う放送で、現在短波三波で英文放送まで行い、放送時間は十二時間三〇分。反政府、反体制活動を宣伝し、特定の人をひぼう、流言ひ語を流布する一方、南韓内の彼らの地下工

作員に対する思想教養も強化、放送している。
—この度の事件が現在成功裡に進行中である総連系在日同胞母国墓参訪問団等、朝鮮連系同胞転向事業に悪い影響を及ぼしはしないか……。

▲全く別個の問題だ。既に母国を訪問し、帰った一千余名の朝鮮総連系同胞は、何が真実で、どちらが真の祖国であるかを体で体験した以上、むしろ彼らに対する敵が心のみ育くむ結果になる。
—今回の事件を契機に、母国に留学して来た在日僑胞学生問題に対する政策上の検討がなければならぬか。

▲糾弾対象はいつわりの宣伝にだまされ祖国を誤って認識する一部の在日僑胞学生ではなく、彼らの立場を悪用し、包摂する北傀の悪辣さにある。従って祖国で勉強しようとする在日僑胞子女に対しては引き続き留学の道を広め、ただ留学生自身は北傀の魔手にひっかからないよう格別の注意をせねばならぬ。

—この事件が我が国学生に与えた教訓があるならば……。
▲「学園騒擾の背後には北傀のスパイがいる」というこの事件の教訓を肝に銘じて「現実参与」「学園自由」「民主回復」等の名で行う集団行為をつつし対共警戒心を高め総力安保態勢確立に寄与しなければならぬ。

—間諜自首期間についても少し具体的に
▲来る十二月十日迄を特別に自首期間に定めた。機会をのがし、後悔しないよう海外では近くの韓国公館に、国内では中央情報部に書面又は直接出頭して前非をくいるなら自首者に対しては法律上の保障を与えるから、自首をし、新しい生き方を求めるようあらためて勧誘する。

学園侵透間諜団の犯罪被疑事実

▲白玉光 (ベク・オクワン) 〓六七年四月、朝鮮連傘下団体「朝鮮人留学生同盟」大阪支部委員長、ユ・ジギルに包摂され、在日北傀工作員・金貴雄 (キム・クイウン) と接触、スパイ活動を開始。六八年七月から三度、入北し、スパイ教育を受けた後「ソウル大に侵透し、学生運動指導者を包摂し、決定的時期に蜂起せよ」等の指令を受け、北傀労働党に入党。六九年四月、母国留学資格試験に合格、ソウル大在外国民教育研究所で修学しながら、七五年一〇月までの間、韓国学生同盟支部長・キム・ウォンチュル、民団大阪支部収金員・金泰明、僑胞学生・キム・ドンフイ (金東輝)、チェ・ヨンスック (崔然淑) らを包摂し、「金日成主義研究会」を結成し、三度、青年会議所、会議参席にかこつけ、国内に潜入、軍人縁故者内探と国家機密工作を展開する等暗躍。

▲金五子 (キム・オジャ) 〓朝鮮連系幹部、張某に包摂され、七二年三月、釜山大に侵透、同学校生・キム・ジョンミ (金貞美) を包摂した後、七五年一月二一日、日本を立寄り入北、労働党に入党した後「釜山大内に統革党指導部を構成し、地下党を構築せよ」等の指令をうけ、釜山大生・ノ・スンイル (盧承日)、パク・ジユンゴン (朴俊建)、キム・ジュンホン (金俊洪) らを包摂、「釜山大統革党指導部」を構成、「学園民主化」「栄光ある朝鮮労働党創建三〇周年を熱烈に祝う」等の、不穩ビラ三五〇枚を製作、学校構内に撒布し、学生幹部にも郵送した。

▲金哲顕 (キム・チョルヒョン) 〓七二年一〇月、在日スパイ・金貴雄に包摂され、入北し、スパイ教育をうけ、七四年四月、韓国神学大学・大学院に侵透し、同学校学生・キム・ミヨンス (金明洙)、ジョン・ピョンセン (田炳生)、ナ・スヒョン (羅蕙賢) らを包摂し、いわゆる「反維新」韓神大指導部を構成し、韓神大生、一四〇名を動員「維新憲法火刑式」デモをくりひろげる等、学生デモを煽動。

▲金鍾太 (キム・ジョンテ) 〓六八年一月、在日スパイ・オ・チョンダル (吳清達) に包摂され、北傀労働党に入党し、七〇年四月、ソウル大文理大に潜入し、大学生サークルに侵透、民青学連主謀者に暴力デモを煽動する一方、国家機密を探知報告。

▲崔然淑 (チェ・ヨンスック) 〓七三年四月、在日スパイ・金貴雄に包摂され、七五年一月、ソウル大在外国民研究所に潜入、学生サークルに侵透し、同調者の糾合を企図する一方、青年将校らを対象に軍事機密を探知。

▲金明洙 (キム・ミヨンス) 〓七四年四月、スパイ・金哲顕に包摂され、いわゆる「反維新韓神大指導部」を構成、金が与えた工作金二〇万ウォンで、韓国神学大学内、各種騒擾を背後操縦。

▲金元重 (キム・ウォンジュン) 〓七〇年一二月、在日スパイ・金仲泰に包摂され、七四年四月ソウル大・社会大学院に侵透、「読書会」サークルを組織、一〇余名の包摂を企図する一方学園内外の各種機密を探知報告。

▲許景朝 (ホ・キョンジョ) 〓六六年五月、在日スパイ・キム・ミンス (金珉守) に包摂され、七二年三月、ソウル大医学部に潜入、学友たちを対象に現政権打倒を宣伝、煽動し、学生、教授の動向と、歪曲した国民経済実態等を収集報告。

▲李元二 (イ・ウォニ) 〓七〇年二月、朝鮮連系幹部に包摂され、七四年四月、釜山大商科大学に侵透潜入し、学生動向、南北会談に

対する民心動向、同調者包摂企図状況等を報告。

▲張永植(チャン・ヨンシク) 〓七〇年四月、朝連系傘下団体幹部に包摂され、七四年三月ソウル大・大学院に入学し、民青学連事件、国内学生動向をはじめ、政治・社会・経済・軍事に関する機密を収集、報告する一方、ソウル大工大生たちに、反体制学園騒擾を煽動。

▲蔣明玉(チャン・ミョンオク) 〓大阪駐在韓国総領事館・事務員でありながら、七三年五月、白玉光に包摂され、白から日貨一〇万円をうけ、白に韓国旅行手続の便宜をはかる一方、総領事館の国家機密を漏説。

▲姜鍾健(カン・ジョンゴン) 〓七三年八月、ソウル大在外国民教育研究所在学中、休みに渡日したが、在日北傀工作員に包摂、高麗大法学科に編入した後、学生デモの状況等を探知・報告する一方、学生同調勢力包摂を企図。

▲金東輝(キム・ドンヒ) 〓七二年二月、白玉光に包摂され、ソウル大在外国民教育研究所とカトリック医大で修学しながら、ソウル大、高麗大・延世大・成均館大・男女大学生、やく三〇名で構成された「ヨンタブ会」(影塔会?)サークルに包摂、包摂を企図し、従業員の動向と活動状況を報告する一方、教友たちに、反政府意識と北傀優越性等を宣伝・煽動。

▲金三郎(キム・サムナン) 〓七二年二月、白玉光に包摂され、ソウル大に潜入、言論人・宗教人らの反体制運動に関する情勢動向を探知報告し、ソウル大の各種学生デモを、背後煽動。

▲田炳生(チョン・ビョンセン)、金貞美(キム・ジョンミ)、盧承日(ノ・スンイル) 〓田炳生は七四年一〇月、スパイ金明洙に包摂され、前後一〇数回にわたり、韓神大学生騒擾デモを主動し、金貞美・盧承日は、釜山大・大学生としてこの学校に包摂したスパイ金五子に包摂され、不隠ピラを校内に分担散布し、同調者糾

合を企図する等、スパイ活動をほう助。

▲羅燾賢(ナ・スヒョン)、朴俊建(パク・ジョンゴン)、金俊洪(キム・ジョンホン)、朴明祚(パク・ミンジョ) 〓羅燾賢はスパイ・金哲頭に包摂され、「反維新韓神大・指導部」を結成、七四年・春、「拘束学生釈放」「維新体制撤廃」等を要求する校内行事を主管し、釜山大生・朴俊建、金俊洪、朴明祚ら、三名はスパイ・金五子に包摂され、北傀歌「イムジン江」を合唱する等北傀スパイに同調。

『民族時報』75年12月1日号(一面) 【原文12ページ】

解説

新聞表題まで指定

中央情報部の 発表文

中央情報部が二二日に発表したいわゆる「学園侵透間諜団事件」の発表文と「報道参考資料」を手に入れ、その手法が悪辣で巧妙なのに再び驚かざるをえない。

発表文はB4型、四九ページからなっているが、その中に発表文が4号活字、六千余字で九ページを占めているが、のこりは被疑者人的事項と個人別犯罪事実要旨が5号活字約四万八千字で埋められており、報道参考資料は活版印刷で二九ページからなっているが、証拠物品写真と人物写真が添附されている。

報道参考資料は目次を、I・報道案、II・事件体系図、III・人物および証拠物写真、IV・解説資料と親切に整理区分されている。

Iの報道案には、○学園侵透大規模、北傀間諜団、一網打尽、○学園侵透、北傀間諜団検挙、○学園騒乱、背後に、北傀間諜暗躍、の三種類の新聞用大表題をあらかじめ決定し、副表題用として

— 在日僑胞留学生 仮装 学園および宗教界侵透

— 学園騒乱、煽動 背後操縦 混乱造成、国家変乱企図

— 学生デモ 背後に北傀間諜暗躍

— 「統一革命党指導部」「韓国民主青年同志会」等で地下網構築

— 「民主化」「自由化」口実 学生蜂起で国家変乱画策

— など五種類を決定し、新聞社等報道機関が思うままに表題を変える

ことができないうよう制限して指定してくれている。

これによって各報道機関の忠誠心の高下を決める採点の基準にした。

IVの質疑応答資料は、九つの目次に区分し、1、今回の事件の捜査は、2、過去の間諜事件と比較するとき今回の事件に関して特記すべきことは何かなど、質問と解答をあらかじめ文章として作成し、記者達が他の質問をできないようにしただけでなく、自意で記事化できないように釘をさしている。

Vの解説資料もあらかじめ準備して記者達に他の資料を引用できないようにし、事件の真相の独自の追究の途をふさいだ。

本国の新聞がこの事件を取り扱った記事を見れば、表題もこの限界を免がれることができず、韓国の言論が完全に画一的に統制されているという如実に示している。

各新聞が表題も副表題も、また質疑問答も中央情報部に指定された限界内で報道している事実を見れば、朴政権治下の言論の実情がどのような実態の下におかれているかを知ることができる。

× ×

イソップの寓話の「おおかみと少年」のように、朴政権の発表は、今までの在日同胞の関連事件やその他すべての事件があまりに虚言に満ちているため、これをそのまま信じる人はひとりもない。

在日同胞や日本の与論も、このような事件が発表されれば「朴政権はまたなにか難関にぶちあたったのか」と言って笑ってしまう。

在日同胞学生達と一般人が北韓に行ってきたという事実は、ほとんど全員が、その当時の所在が明らかで虚偽であることが日本で立証されている。

最近の崔哲教、陳斗鉉氏らが死刑を宣告されたが、東京弁護士会の調査から北韓に行っていなかったという証拠が示されている。

白玉光氏も三度北韓を往來したとされているが、その家族と親近者は絶対にそのような事実がないと訴えている。

× ×

真の自由と民主化を要求する青年学生達の純粋な愛国の熱情を北韓と結びつけ「間諜」の罪をさせ弾圧するということは、絶対に許してはいけない。このような諸悪の根源が国の分断に起因しているが故に、我々は現実固定化のための策動を排撃し、南北統一を促進せねばならない。

声

明

(11月25日、記者会見で発表)

11月22日の韓国中央情報部の、在日韓国人留学生・青年をめぐる一連の発表は、私たち日本在住の“被疑者家族”と“救援する会”の一同にとって、青天のへきれきでありました。母国へ留学している少なからぬ在日韓国人留学生・青年が、中央情報部(KCIA)に、9月下旬より順次連行されているとの報が、断片的にせよ、日本に入ってきたのは、10月の中頃でした。その日から拘束者の家族にとって一日として安堵する日はなく、常に暗夜のような家の中で、持っていきようなない満腔の怒りと、やり場のない悲泣に明け暮れていました。それでも、もしや早期に釈放されるのでは………という淡い望みも、11月22日の、KCIAの、非情なほどの苛斂誅求な発表に全て斃れてしまったのです。抑えようとしても抑えられない満身の震えは一体どうすればとまるのでしょうか！いわれなき虚構の罪で、純真な息子や娘たちを、牢屋の独房に委ねた、父や母の歎きは、一体誰が知り得るのでしょうか！又、兄や姉、弟や妹を想う兄弟の悲憤は一体どこにぶつけなければいいのでしょうか！

△

△

△

過去、向学意欲に燃えた純真な在日僑胞の子弟たちが、母国へ留学し、母国語による教育を享け、そのささやかな力を韓国の未来へ捧げるべく刻苦研鑽してきたのは、天下周知の事実です。又、韓国政府の賞揚するところでもありました。

その時と、現在と、どのように事態が変化したというのでしょうか

実際、私たちが調べた個々の被疑者の事実調査では、皆、真摯で、真面目に勉学に励み次代の韓国を担う立派な青年ばかりでした。何ゆえに彼らが獄舎につながれ、無実の罪を課せられ、審かれねばならないのか、私たちは理解に苦しみます。当局者の恣意的意図によって犠牲(いけにえ)の小羊になるのは、前途ある彼らにとっても、又、韓国政府にとっても、重大な損失であると思えます。

そして、ここに私たち“被疑者家族の会”と十三人の在日韓国人留学生・青年を“救援する会”は、昂然と貌(かお)をあげ、今後一致団結して、十三人の在日韓国人留学生・青年の早期釈放を、関係各方面に訴えるべく、広範な日本人たちと協力して、行動を起すものです。

私たちは、それが真の韓国と日本の友情と連帯の絆(きずな)を強めることと確信するものです。

十一月二十五日

在日韓国人留学生・青年被疑者家族の会

11・22在日韓国人留学生・青年不当逮捕者を救援する会

(連絡先) 摂津富田教会

高槻市富田町三の七の二五

(電話) 〇七二六―九六一―二五六二

談

話

(12月27日、記者会見で発表)

去る十一月二二日、韓国中央情報部(KCIA)は、北のスパイ摘発に名を借りた、在日韓国人留学生・青年一三名を含む二一名の

無くな愛国的学生・青年を不当に逮捕、送検したことを発表した。

私たち、韓国問題に関心のある日本人の有志一同と、これらKCIAの造作事件の不運な犠牲者と関わりのある日本の市民とによって、直ちに「11・22在日韓国人留学生・青年不当逮捕者を救援する会」が結成された。以来、私たちは、個々の救援会の発足に尽力すると共に、種々の宣伝方法で、これら学生・青年の早期釈放を要請すべく日本の広範な市民と様々な運動を展開してきた。そして、今回の造作事件をKCIAから委譲されたソウル地方検察庁の動向と事態の推移を注目してきたが、このほど私たち救援会が入手したソウル消息筋からの情報によると、二月一日、在日韓国人留学生・青年一三名を含む二一名全員が、ソウル地方法院に「国家保安法」「反共法」等の違反容疑で起訴されたことが判明した。裁判は分離公判で、その内容は次の通りである。

第一グループ(三名) 白玉光(二七才) 金五子(二四才)

金哲顕(二九才)

担当裁判官は沈勲鍾裁判長。

第二グループ(十名) 金鍾太(二五才) 崔然淑(二四才)

金元重(二四才) 許景朝(三二才)

李元二(二三才) 張永植(二六才)

蔣明玉(二三才) 姜鍾健(二四才)

金東輝(二二才) 金三郎(二五才)

担当裁判官は許正勲裁判長。

以上第一、二グループは全員在日韓国人留学生、青年である。

第三グループ(八名) 金明珠(二七才) 田炳生(二五才)

金貞美(二〇才) 盧承日(二四才)

羅燾賢(二八才) 朴俊建(二二才)

金俊洪(二二才) 朴明祚(二二才)

以上は現地韓国人学生。

第一回公判は、七六年一月中旬であろうとの観測である。

私たち救援会は、この報に接して、暗たんとした気持ちとこみ上げる怒りで一杯である。何よりも残された家族の心情を思うに、同情と憐憫の念を禁じ得ない。

ここで私たちが注目するのは、一ヶ月前報道案文さえも事前にKCIAで提供するという異状なほどの熱意の入れかたで、大々的な発表を喧伝したにもかかわらず、今回の起訴に際しては、通常の司法部の報道関係者への発表さえもない、極めて異例なものとなっていることである。これは、彼ら当局者が、この造作事件を聞かすからと、隠密裡に葬り、処断を強行しようとする意図が明白である。私たちは、この不透明な裁判が、そのまま事実審理さえも省略して性急に進められることを、深く危惧し憂慮する。また、起訴確定日が、当初の予想よりかなり延引されたのは、KCIAのこの恣意的な造作事件に、ソウル地方検察庁が、そのあまりのデタラメに躊躇し、公判の維持が困難であると決ったためとの風聞が、ソウルの関係者に流布している事実も附記しておく。

私たち救援会は、種々の救援の運動と並行して、家族の協力のもとに、個々の被疑者に課せられた嫌疑の理非曲道を鋭意調査してきたが、その結果、容疑事実それ自体、極めて曖昧かつ不分明で、KCIAが一体どのような意図で、今回の事件を造作し、在日韓国人留学生・青年一三名を含む二一名の純真な学生たちを、不法に拘束しているのか理解に苦しむ証左を得た。ここに例を挙げると、「ソウル市民の住宅事情と生活水準を報告した」あるいは「イムジン河を皆で合唱した」等が「国家機密を探知報告した」「内乱騒擾を企図した」というように誇大、歪曲化されている。背後在日間諜と名指された在日韓国人の経歴や肩書きが極めてずさんであったり私たちが聴取したその証言も、彼らにとって全く身に覚えがなかったり、接触したという人物に会ったこともなければ、名前さえも始め

て聞いたと述べている。又、少なからぬ該当人物が一体どこにいるのか、その所在すら今もって不明で、全くの架空の人物ではないかという疑念さえ覚える。

このように、不条理不明朗な容疑事実で、無実の学生、青年たちを、酷寒の牢獄に幽閉し、極刑を含めた重刑に科すべく企図しているのは人間性の名に於て許されざる暴挙であり、私たち救援会は断じて容認できない。

又不当拘束者の日本在住の家族の人たちに、彼らの諸々の弱さや事情の疎さにつけ込み、脅迫と恫喝をくり返し、人道的な私たちの救援運動に対して誤った知識を吹聴している民団・在日・KCIAに対して、深い憤激の念を抑えることができない。家族の人たちの一日として止むことのない怨嗟の悲泣を聞くにつけ、私たちの胸のうずきと怒りは頂点に達する。今後、私たち救援会は、家族の人たちとも連絡を密にして、不当逮捕拘束者に、物心両面の援助をする一方、日本の市民層にとどまらず、国際的世論をも喚起して、早期釈放を獲らとり、彼らが一日も早く父母の胸に抱かれるように奮闘するものである。

一九七五年一月二七日

11・22在日韓国人留学生・青年不当逮捕者を救援する会

代表 妹 尾 活 夫

良識ある日本の皆様に訴えます。

(11月25日、記者会見において)

私共は、一月二二日、韓国中央情報部発表において「学園スパイ団の主犯格として、国家保安法・反共法違反容疑で逮捕、送検の旨

が明らかにされた白玉光の親族一同であります。

発表によれば在日韓国人を中心とし二一名が関連し「韓国政府の転覆と共産化の目的で在日韓国人を留学生に仕立てソウル大、韓国神学大、釜山大、高麗大、カトリック医大に潜入させ、いわゆる対南工作の「統一革命党指導部」を学園内に組織し「韓国民主青年同志会」の名で、民主自由化運動を背後から操った」(読売一月二二日夕刊)とされております。本人白玉光についてはその主謀者とされ、「一九六七年七月から七五年六月まで三回に亘って北朝鮮に渡った」とされ日本において呉某の指導の下に朝鮮労働党の細胞をつくったとされております。しかし、事実が明白なように、これらの「容疑」は全く事実無根であり、それを裏付けるはつきりとした証拠と確証を上げることができません。

いわゆる「北朝鮮との関連」については一月二三日付朝日新聞における呉清達氏の談話内容によっても事実無根であることが裏付けられています。一緒に「労働党細胞」あるいは「金日成主義研究会」なるものをつくったとされている「呉清達氏」や「安日秀氏」との接触の事実と形跡も克明に調べてみましたが、全く存在しません。また金貴雄氏は白玉光の義兄で、韓国籍と永住権を有した在日韓国人であり「北朝鮮スパイ」どころか政治には全く関係なく、在日韓国奨学会の専務理事に在任し、私立高校講師をつとめる素姓のはっきりした人物です。金貴雄氏本人によってもすでに事実無根の旨がはつきりと明言されており、現在明確な資料と調査に基づいた、事実無根であることを示す所信表明の準備がなされているとのこと。 「偽装企業」とされた「シアル書堂」や「白頭学院」が何をさすのか見当もつきません。もとより白玉光本人とは何の関係もありません。さらに「啓成学院」について言えば、白玉光とは無関係な、平凡な受験学習塾にすぎず、そこで教えたとか、その経営にタッチしたという事実は全くありません。また在日韓国人青少年相手

に「韓国語」や「風習」を教えたり「政治教育」をするような場所ではなく、過去一度もそのような事実がなかったばかりか、ありようもなかったことがはっきりとしています。

また「入北」の件について言えば、たとえば「一九七〇年一月」頃の場合は姉の結婚式準備のため、白玉光はその期間、多数の人びとと連日会っており、いささかの疑いの余地もありません。他にについても同様、明白で確実なアリバイがあります。一九六七年以降の本人の生活状況を検討することによっても全く言語道断な「容疑」と言わなければなりません。

白玉光は日本で生まれ、日本で育った韓国籍と日本永住権を有する在日韓国人であり、祖国を愛し、祖国の発展のために寄与したいという姿勢をもった純真な一青年であります。また学生時代以降現在に至るまで北朝鮮系の組織に関連した事実はなく、過激な言動もありませんでした。本人はむしろ在日韓国居留民団東成支部次長職や韓国大阪青年会議所事務局長職に在職してきたことにもあらわれてるように、韓国民として何ら非難される点をもたない存在であります。

とにかく、いかなる面から考えてみても、思いあたるふしがないばかりでなく、容疑内容のどの部分をとってみても事実無根であると断じざるを得ないのであります。

今回の逮捕の状況についても重大な疑念を抱かざるを得ません。本人は公明正大に取得したパスポートを携帯して韓国青年会議所の一会員として全国会員大会参加のため、一〇月三日諸会員とともに渡韓いたしました。

そして行事終了と共に一〇月九日に日本に戻る予定でありました。一〇月九日には亡父の法事があり、どのようなことがあっても戻らねばならなかったのです。九日一時三〇分釜山発の飛行便の座席を確保していたことが確認されています。このような時に、またこの

ような短期間において、何の特別な行動をとり得ましようか。韓国の現状を多少とも御存知の方なら、一点のくもりなく御理解いただけるものと思えます。本人は帰日直前の国際電話でも「マツタケが安いのでお父さんの仏前におそなえして、みんなと一緒に食べよう。」と伝えてきたような心のやさしいところはあっても、発表にあるような大それたことをしでかすような人間では決してありません。本人が何か長期滞在してはつきりした政治的行動をとったとか、過去そのような行動があったならともかくとして、そうでないこのような状況での逮捕が許されていいものでしょうか。

発表内容を検討してみましても本人の「供述」なるものがただ根拠とされているにすぎないようであり、何ら具体的な物的証拠をあげることができないことが何よりも雄弁に物語っているではありませんか。また何か具体的な政治的行動を根拠としているのではなく、「意図した」といった表現に終始していることにも表われています。「供述」なるものについても韓国の政情そして情報部の取り調べのやり方について多少とも知識があれば、どれだけ信頼にたいするか、疑念を抱かざるを得ません。先の一九七一年の「留学生事件」関連の徐勝君がおびた半身に及ぶ大火傷の例をあげるまでもなく、すでに全世界に知られわたっており、国際的な非難をあげているような、およそ人間的な感覚をもってしては考えられない恐ろしい拷問を念頭におかざるを得ません。恐怖と苦痛の中で本人に強制される「供述」なるものは、法的常識からしても、健全な感覚からしても、全く無効であります。

今、ソウルには厳しい冬がおとずれています。本人は幼いころから病弱で、両親兄妹を心配させたものでした。小学生時代には結核をわずらい、中学生時代に再発したこともあり、果して無事であるかどうか懸念されます。父親を小学校二年生のときになくし、姉達は全てとつぎ、兄達も仕事の関係上別居しております。自宅では

六十六歳になる病弱の母親が末息子の無事を案じながら食事も満足にとらないで涙の日々をおくっております。

この母親に無実の息子をかえしてやって下さい。この末息子が嫁をめぐり一緒に暮らす日々を生きがいとしてきた母親の気持を痛いほどに感じるにつけ、私共は胸をさかれるような悲しみを覚えるのであります。

一九七五年一月二五日

白玉光の親族一同

代表 実兄 白 玉 顕

市民の皆さんに訴えます

無実の青年・学生の釈放を！

韓国中央情報部（K O I A）によつて「北のスパイ団」として「デッチ上げられ」逮捕拘禁されている在日韓国人留学生一三名を含む二一名の学生・青年達が、一二月一五月「秘密裡」に「起訴」されていることが、私達救援会の調査によつて判明しました。K O I Aは十一月二二日、鳴物入りで無実の学生・青年を「デッチ上げ」、逮捕・送検したことを発表したにもかかわらず、「起訴」の段階で隠密行動をとり始め、事件を闇から闇へ葬ろうとし始めたことに対して私達は深く危ぐし憂慮します。

市民のみなさん！ 酷寒のソウルの夜は、冷下二〇度以下まで下がります。この凍てつく牢獄の中で、たつた一枚の毛布にくるまつて斗っている学生・青年達は、一体どんな罪を犯したといふのでしょうか。

「行つたこともない北に行つた」といわれ、

「ソウル市民の住宅事情と生活水準を報告したこと」がスパイ罪にあたるといわれ、

「イムジン河を皆なで合唱した」ことが内乱騒擾を企図したとされ、

「会つたこともない人物に会つた」といわれる。

一体このようなことが「反共法違反」「国家保安法違反」「スパイ罪」にあたるのでしょうか。新聞報道によれば、在日韓国人留学生の全員がK O I Aに呼びつけられ、何らかの取調べを受けていると報道されています。

△市民の皆さんに心から訴えます！

私達「在日韓国人留学生不当逮捕者を救援する会」と共に斗つて下さい！ 無実の学生・青年達は今、自らの潔白と正義のみを信じ、酷寒の牢獄の中で斗いつづけています。彼らを一日も早く釈放させる為に、K O I Aを弾劾し、抗議活動を起して下さい！

一九七五年十二月二七日

「在日韓国人留学生不当逮捕者を救援する会」

連絡先……摂津富田教会

大阪府高槻市富田町三十七

二五

電話……〇七二六（九六）二五六二

市民の皆さんに訴える

十一月二二日、ソウルに於て、在日韓国人留学生十三名を含む二一名の学生が不当なねつ造容疑によつて逮捕拘禁されていることが、韓国中央情報部（K O I A）によつて発表された。

過去、韓国の過酷な情報部独裁政権の延命、維持のためどれほど多くの愛国的な在日韓国人が「スパイ」や「政府転覆」の汚名を着せられて処断され、投獄されてきたことか！その人たちのほとんどが、全くの無実であるにも関わらず、当局者の恣意的な意図によつて、人間としての最低限の権利さえも無視され、闇から闇へと葬られてきたのは多くの事実からも明白である。そしてまた再び……。一体いつになればこのような悲しい報の繰り返しが終るのだろうか！しかし、私達は、今安易な感傷に浸っている時ではない。何の罪もなく凍てつく牢獄につながれている学生、青年たちの窮状や、彼らの安否を問うことや、面会さえも許されず悶々と焦慮の時をすごしている家族の人々を考えれば、一刻の猶予も許されない。

今後、私達は、被疑者の家族の人たちと協力して、これら在日韓国人留学生青年、十三名を含む二一名らの早期釈放を関係各方面に働きかけ、彼らに課せられた容疑事実が全くの無実であることを白日の下にさらすべく、強力な運動を展開しなければならない。私達は、そうすることが日本と韓国の真の友情と連帯の証しになると信ずるものである。幅広い市民の皆さんの御支援と御協力を切にお願いするものである。

一九七五年十一月二五日

一一・三二在日韓国人留学生、青年不当逮捕者を救援する会

※連絡先—摂津富田教会

大阪府高槻市富田町三十七二五

電話 〇七二六（九六）二五六二

私は、韓国留学生スパイ事件で逮捕された家族の一人です。××が消息を断ったのは一〇月上旬。K C I A 発表は、一月二二日でした。そして二月中旬頃起訴されたことは、全く暗黙裡に秘かに行われ、起訴状さえも入手することは困難とのことです。闇から闇へとこの事件を葬ろうとしているのは明らかです。今、正月を迎え、こんな事件が、起ったことさえ忘れかけているように見える日本の社会で、在日韓国人である私たちは、祖国である善の韓国から、このような酷い仕打ちを受け、生れ育った日本に救いを求めても、その反応は余りにも冷たく、絶望の谷間をさまよっています。現在、莫大な弁護士料に泣き、牢獄に繋がれた肉親の安否を気づかって眠れぬ夜が続きます。明白な無実の人間を罪人に仕立てた祖国の正体は一体何なのか？ そう考えると身体が震え、絶望と恐怖が、私たちをどん底におとし入れるのです。独裁者の延命のために、これ以上犠牲者が増えるのをくい止めねばなりません、このことは一市民の問題でなく、人権を無視し、生命までも脅かす行為は、全人類に対する挑戦であると思われまふ。日本の心ある数多くの人々が、独裁政権にふるえる民衆の胸の裡を黙視することなく立ち上って頂きたいのです。私自身、ふりかかってくる暴力には、あまりにも無力であり、今こうして無記名でしか、出せなかった弱さを、どうぞ御理解下さい。私が作った詩を同封します。

慟 哭

哀号！
 憧れと希望に胸ふくらませた故国留学
 その「国」から学んだものは
 憎悪、絶望、暴力、権力にまつわりつく金力
 そして、とてつもなく大きな「ワナ」
 ある日突然連れ去られ
 気付いた時
 科（とが）なき罪人に仕立てられ
 今、人知れず冷たい牢獄に繋がる
 哀号！
 怒りに口びるは血が滲む
 握り緊めたこぶしは
 振り上げるすべを知らない
 三間四方に慟哭の響きだけが満つ。
 そう――
 人質を取られた私は
 このペンを持つことすら踏い
 密かに無記で書かざるを得ない
 しかし、信じたい
 心ある人々が目を向け
 無実で牢獄に繋がれた若い命が
 救われんことを！

◎ 全協ニュース ◎ 第2号

一九七五年一月一日

在日大韓基督教青年会全国協議会

金 哲 願 神 学 生 逮 捕 さ れ る !

全国の青年・信徒の皆さん！私たちの教会の歴史においてこれほど悲しい出来事があったでしょうか。これほど皆なが涙を流し祈るべき苦難の時があったでしょうか。
 去る一月二二日韓国中央情報部が、私たちの教会の神学生金哲願兄を含む一三名の韓国留学生の逮捕を発表しました。この事件の発表は、私たちにとても大きな驚きであると同時に、私たちの総会が、韓国神学大学に派遣した金哲願兄の無事を祈らずにはおれないのです。

金 哲 願 神 学 生 の お い た ち

金守東長老老任の息子として、一九四六年一月に武庫川教会内で生れた金哲願兄は、幼いころから教会と共に生活をおくり、一九六四年尼崎市立尼崎高校を卒業すると同時に、将来牧師としての道を歩むべく同志社神学校に入学、その間日曜学校の教師や青年会活動を担い、一九六九年九月には全協中央委員に選出され、青年会運動の中心メンバーとして活躍されたのであります。祖母・両親が熱心なクリスチャンという家庭環境と、全家庭の暖かい応援のもとに一九

逮 捕 の 経 過 と 総 会 の 対 応

七一年四月に大学院修士課程に進まれたのであります。一方私たちの総会は、金哲願兄を総会の神学生として正式に決定、哲願兄に対して支援してきたのであります。
 哲願兄は、同志社神学部修士課程において深い聖書理解と優秀な成績を修め、一九七四年三月修士課程を卒業されたのです。
 さらに同年四月、より深い聖書研究と韓国語修得のため、韓国神学大学修士課程に入学され、その間も教会で主日学校の教師として熱心なクリスチャン生活をおくってこられたのであります。

将来、牧師になることの希望をいだき韓国神学大学で勉強しておられた金哲願兄が、一〇月一五日韓国中央情報部により国家保安法および反共法違反の容疑で逮捕され、まもなく哲願兄の裁判がなされようとしています。

起訴に関する正確な資料集収が困難であります。韓国の新聞発表および韓国神学大学からの連絡によれば、七三年三月九日から五月二六日までの八〇日間、北韓に行った容疑がもたれているとのことです。しかし、武庫川教会の洪永其牧師を始めとして家族の人たちは、「その当時金哲願兄は、ほとんど毎週教会の日曜学校の牧師をしておられた。」と語っておられます。

それより先には、事件の重大性を知った私たちの総会は、一月一〇日に呉允台牧師任・洪永其牧師任を韓国に送って詳しい事情を調べる一方、一月二五日には、臨時任職員会を全国の牧師任を始め家族の人々の参加のもとに開催、具体的な対応策を協議した結果「金哲願神学生救出委員会」を作り金哲願神学生救出のために、あらゆる努力をすることが決定され、引き続き救出委員会の名で記者会見を行い、決定事項を明らかにしたのであります。以下、「金哲

※※ 金 哲頭神学生逮捕に関して ※※

最近の新聞によって報道された金哲頭神学生逮捕事件に対して、その家族および教会はもちろんのこと、金哲頭神学生を派遣した在日大韓基督教総会も、全く意外なことと驚いています。総会としては牧会上の配慮によって、彼の救出委員会を組織、彼の救出に最善の努力をつくすことに決定しました。

在日大韓基督教総会

金 哲頭神学生救出委員会

一九七五年一月二五日

委員長

- 洪 永其牧師 (武庫川教会牧師)
 - 呉 允台牧師 (東京教会牧師)
 - 金 君植牧師 (横浜教会牧師)
 - 黄 義生牧師 (名古屋教会牧師)
 - 尹 宗銀牧師 (堺教会牧師)
 - 金 榮植牧師 (折尾教会牧師)
 - 権 仁淑 (全国婦人連合会)
 - 高 光重 (青年会全国協議会)
 - 金 京秋長老 (大阪教会長老)
- 具体的には、金哲頭兄が入北していたといわれる三月九日から五月二六日の一〇日間の容疑事実に対する調査および裁判費用等の資金集めを行い韓国神学大学と連絡を密にしていくことが確認されたのであります。

金五子さんのこと

内村 公義

金五子さんと最初に会ったのは一九六五年九月の或る日曜日のことでした。その朝、中学三年生であった彼女は友人に連れられて、七条キリスト教会少年部の集会に出席したのでした。その日どんな説教をしたのだろうか、当時の教会学校教案を調べたところ、旧約聖書創世記三九章から、「ヨセフがエジプトで無実の罪を着せられて投獄されたが、その苦難の日に神が彼と共に居られた」という話をしたようです。十年後に五子さんがヨセフと同じような苦難に遭うとは思ってもよらぬことでした。それ以来、彼女はほとんど休まず礼拝に出席し、翌年の夏に洗礼を受け、教会学校の手伝いをするようになりました。とくに長岡の分校での活躍が印象に残っています。

高校生のころ彼女が書いたものを読みかえしてみると、人間として生きるとはいかなることか、人はいかにして他者を愛することができるか、いかにして隣人と共に生きることが出来るか、という問いをかかえていたように思われます。高校を卒業するころから、彼女は教会と距離を置くようになりました。それは、神の前で平等な人間として生きるという、教会で得た視点を、日本という差別社会の具体的な状況の中に置けばどうなるのか、一般的な人間としての生きかたを問うだけではなく、在日韓国人としての自覚的な生きかたを問わねばならぬと考えたからです。

彼女が教会を離れて数年になりますが、彼女の問いはずうっとわたしのうちに突き刺さっています。つまりキリスト教会は神の前の平等を観念的に説くことによって、差別の現実から目をそらせ、

かえって差別を助長しているのではないかということです。そういう差別性の克服を課題としつつ、わたしは彼女といつか互に卒直に批判し合う機会を得たいと願いながら、この数年間を過してきました。

昨年一月二三日、彼女が韓国中央情報部によって逮捕されたことを知り、驚きと憤りを禁じ得ませんでした。人間らしい生きかたを求め、隣人と共に生きることが韓国人として真摯に願った彼女が、強権によって恣意的に抹殺されるとすれば、そしてそのことをわたしたちが黙認するとすれば、わたしたちは真理や正義や愛や、良心や人権や人間の尊厳について二度と語る事ができないだろうと思えます。

五子さんが教会に熱心に通っていたころに書いた「キリストの愛」という文章があるのですが、その結びに、あたかも遠い未来を予感したかのように、新約聖書コリント人への第一の手紙一〇章一三節が引用されています。

「あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」

酷寒の獄につながれ厳しい試練の中にある彼女に、それに耐えぬく勇気が与えられるよう祈るとともに、わたしたち自身が釈放の日までねばりよく支援を続けねばならぬと決意しています。

(日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団七条キリスト教会牧師)

- 編集・発行 11・22 在日韓国人留学生・青年不当
逮捕者を支援する会 高槻市富田町3-7-25
摂津富田教会気付 TEL. 0726-96-2562
- カンパ送り先 郵便振替(大阪 4649、摂津富田教会)
- 1976年1月25日
- 定 価 200円 プラス カンパをノ